

## 令和6年度第2回さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議（要旨）

- 1 日 時 令和6年11月5日（火）14：00～16：00
- 2 場 所 さぬき市役所本庁 3階 302会議室
- 3 出席者 【委員】米田委員 小泉委員 長山委員 井出委員 久保委員  
藤原委員（オンライン） 朝倉委員  
【事務局】間嶋総務部長 多田政策課長 田中係長 橋本主査  
株式会社ぎょうせい 木下氏 倉内氏 家久氏
- 4 傍聴者 3名
- 5 会議次第
- 1 開会
  - 2 座長挨拶
  - 3 議事
    - (1) さぬき市人口ビジョン（案）について
    - (2) 第3期さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について
    - (3) 第3期さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略における具体的な施策・KPI（案）について
    - (4) その他
  - 4 事務連絡
  - 5 閉会
- 6 配布資料 【資料1】さぬき市人口ビジョン（案）  
【資料2】第3期さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）  
【資料3】第3期総合戦略における施策体系  
【資料4】第3期さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略における具体的な施策及びKPI一覧  
【資料5】第3期総合戦略KPIにかかる調査票（廃止・継続・新規）  
参考資料1：意見書集約版（第2期総合戦略の達成状況について）  
参考資料2：意見書集約版（第3期総合戦略の策定に向けて）
- 7 議事の経過及び発言要旨

発言者	意見概要
政策課長	<p style="text-align: center;">＜ 開 会 ＞（14：00）</p> <p>本日はご多忙の中、さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議にご出席いただきありがとうございます。</p> <p>それでは開会にあたりまして、座長より、ご挨拶を申し上げます。</p>

座長	<p>&lt;座長挨拶&gt;</p> <p>それでは、議題に入ります。議題1「さぬき市人口ビジョン（案）について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>&lt;事務局説明&gt;</p>
座長	<p>質問やご意見はありませんか。</p> <p>改訂のポイントは、20～40歳代前半の女性の流出が止まって均衡することと、合計特殊出生数が上昇すること。この二重の仮定を置くとさぬき市の出生数が下げ止まりとなる。</p> <p>止まる理由は、女性が流出しなくなり、より多くの出生数が見込めるということである。</p>
委員	<p>出生数は、具体的にはどのくらいで人口が安定するのか。令和5年度の実績は、158人ということだが、160人程度だろうか。</p>
事務局	<p>どの程度で安定するのかは分からない。</p>
座長	<p>仮定したパターンでの人口の将来展望は、2065年に0～14歳人口は、3,400人程度であるので、15で割ると、0歳児も200人程度である。現在が160人なのでプラス70人の出生数となれば安定となる。仮定でいくと、50年という長い期間を取るのであれば、人口は安定的になるということか。ただ、その仮定は厳しいものだとも思う。さぬき市の女性は、毎年どの程度流出しているのだろうか。2023年のデータというと徳島文理大学移転の影響は入っているのか。</p>
事務局	<p>徳島文理大学の移転は2024年度からなので、本データには反映されていない。</p>
座長	<p>2023年のデータでは、10代の女性について、社会増減がプラスになっている。思ったほど流出していなくて驚いている。この世代は、進学で人口移動が多くなるのに。逆に20～29歳の流出が多いようだ。特に、20～22歳が中心の移動だろう。男性よりも、女性の方が移動しない理由は何故だろうか。ここは、解釈の難しいところだと思う。徳島文理大学は男性と女性、どちらの比率が多いのか。</p>
委員	<p>女性の方が多いようである。</p>

座長	徳島文理大学の移転が社会増減に大きく影響してくると思う。文理大学の影響がなくなってから考えたほうがいいと思う。
委員	今回の人口ビジョンの将来展望に向けて、国は合計特殊出生率の想定数字は出していないのか。
事務局	国は今回、具体的な数字を出していない。自治体独自で考える形である。
座長	ただ単に基本パターンだけを出しているということか。
事務局	国が算出する合計特殊出生率のデータは、20～44歳女性の出生率を対象としているため、さぬき市人口ビジョン（案）も同様の考え方である。また、2.07以上ないと人口は回復しないと言われているが、国がシミュレーションで示した出生率が2.1というのは実現可能ではない。
座長	さぬき市が掲げる、2055年以降、合計特殊出生率を1.8まで上げることができれば、大抵の問題は解決すると思う。
事務局	人口のシミュレーションに影響を及ぼすもの一番大きいのは、出生率。その次に社会増減のプラスマイナスを0にしていくことになる。
委員	出生数を増やすには女性の20～30歳の未婚率を下げる必要があると思う。そのためには、男性の就業率向上も促す必要がある。男性の収入の安定が必要だと思う。
座長	さぬき市の男性の生涯未婚率も高まっている。ただ、全国平均と比較すると低いと思う。 日本の場合、結婚した後に生まれる子供の数は90%後半になる。ただ、フランスだと、50%以下となっており、結婚していない状態のお母さんから生まれる子供が多い状態である。フランスであれば、未婚率を気にする必要はない。
事務局	未婚率で言えば、女性の30～34歳で、2015年と比較した2020年は、5ポイントほど上がっている。 そこに着目すれば、20～44歳の枠組みの中で婚姻、子供を増やすという施策が見えてくる。

委員	コロナ禍も含まれる4年間で、出生率は上がるのではと期待していたが、結婚する人も少なく、逆の結果になってしまった。
委員	コロナ禍で人と人とのふれあいが減った、というニュースを見たことがある。そういった影響もあるのではないか。
座長	合計特殊出生率は、回復するのだろうか。出生数がこの3年で、全国で10万人以上減っているのは驚いた。 次の国勢調査と社人研の推計調査を注視しなければならない。
事務局	直近の合計特殊出生率では、コロナ禍に影響されている時期が含まれている。その中でも増えている自治体もあるが、次の4年間で考えると、本市は上昇していると思う。
座長	未婚率など、何もしなければ上がっていくと思うので、政策面で、下がるような努力は続けなければならない。昔は、都会から女性を呼んで、婚活イベントを行う自治体もあったように思うが、現在は、東京でさえも結婚を促進する婚活イベントをやっている。
委員	外国人と結婚される方もいる。今の時代は、地方でも外国人と結婚することも考えられるのではないか。
座長	これからは、特定技能外国人との婚姻も可能性がある。外国人技能実習制度から育成就労制度に変わった。10年、20年と資格をクラスアップしていくと、子供の出産や家族も日本へ移住できるようになる。
委員	フランスでは、グランゼコールという日本でいう高等専門学校のようなものに人気がある。さぬき市にも製造業があるので、こういった仕組みを考えてはどうか。
座長	徳島県の神山町では神山まるごと高専があり、非常に人気があるそうだ。 やはり、徳島文理大学が出ていくのは、厳しい。母校があれば、学生は、将来さぬき市に戻って来てくれたかもしれない。
委員	20～44歳の女性を残すという話になっているが、結婚と出産をイコールにするの

	<p>は時代的にはいかがと思う。子どもを産む以上は育てるために、稼がないといけない。働かないといけない。</p> <p>10月から最低賃金が上がっており、受け入れる事業者の立場としては、単純に従業員を増やす時代でもなくなっている。</p> <p>市外に勤める人もいると思うが、勤めやすい所に住まいを移すことが一般的であるので、市内で就職先を作る、起業することも大事である。</p>
委員	議事（2）について事務局から説明をお願いします。
事務局	<事務局説明>
委員	地域ビジョンの『ひとつ上の質の良さを求めて』は良いと思う。 各施策の方向性にも、それらを踏まえた文言を付け加えてはどうか。
事務局	検討する。
座長	議事（3）について事務局から説明をお願いします。
事務局	<事務局説明>
座長	具体的なパフォーマンスを上げる指標やタイトルに変更したものもある。 質問などあるだろうか。
委員	放課後の居場所づくりの推進について、待機児童0は素晴らしいと思う。 雇用者も従業員に対して、子育て環境の整備についてケアが必要。安心して子供を預け入れられる環境づくりは、仕事をする上で非常に重要。
座長	期初、期中でも待機児童はゼロなのか。
事務局	放課後児童クラブについては、小学生を対象としている。保育所・幼稚園も待機児童はゼロであり、期中に増えることは基本的にない。例外として、転校してきた場合がある。
座長	移住体験ハウスについて、利用者のうち、移住した方の数値は把握しているのか。

事務局	令和5年度で言えば27件中、1件あったと思う。
委員	移住目的ではなく、旅行目的での利用者がいたとの話がある。
委員	この体験施設を利用されていた方で、その後どちらの市町を選ばれたのか。これが分かれば対策もできるだろうと思う。
事務局	利用者には、アンケート調査を実施している。
委員	この総合戦略はよく考えられているが、こういう計画は他の市町で同じものが並ぶ。もう一度、さぬき市ならではの物を考え出さないと魅力にはつながりにくい。移住体験ハウスの場所について、津田は景色がよくイメージが良い。多和については、山間部になるので、利便性を考えると、移住をイメージするのは少し難があるのではないか。
事務局	多和は、旧小学校分校を移住体験ハウスに改修している。ご意見にあるように、さぬき市に移住した人が多い地域を調査した上で、新たに移住体験ハウスを造ることも検討している。
座長	稼働率はどの程度か。
事務局	津田は70%超え、多和は低い。
委員	体験ハウスと絡めて、温泉とかどうだろうか。神前であれば、地元の人がよく使っている温泉施設もある。
座長	老後に住もうと沢山来てくれるなら、少しでもヒットする可能性が上がる。特徴づけにはなると思う。
委員	農林水産業における後継者育成の支援とあるが、鳴門市の事例でいうと、人手が足りない時期に、外部から一定期間、人を呼んで農業を体験してもらいながら、賃金も支払うといったプログラムを行っている。ゆくゆくは、市で働いてもらうなど市の人口増にもつながる。農林水産業だけでなく商工業でも後継者不足は高まっているので、これらについて、さぬき市も検討してほしい。 また、先端設備投資等の導入とあるが、先端設備以外でも事業者が活用できるような

	支援があれば嬉しい。設備投資全般でご検討いただきたい。
委員	企業版ふるさと納税の KPI は件数になっているが、この理由は何だろうか
事務局	金額を公表したくない企業がいるうえで、企業側の意向を踏まえている。
委員	公表したほうが、企業のイメージアップになりそうな気がするが、公表していい企業はした方がいいと思う。
事務局	広報紙やホームページでは公表している。
委員	女性活躍の推進について、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して、女性に対する支援を積極的に行っているところが多い。例えば、群馬県太田市では、女性を対象としたキャリア教育支援を行っている。また、大学生を対象にしたインターンも実施している。さぬき市も企業への啓発だけでなく、女性自身に対する支援も行ってはどうか。
座長	主担当はどこがされているのか。
事務局	人権推進課が主であり、商工観光課と協力して啓発を行っている。
座長	担当と検討いただければと思う。 その他について、何かあるだろうか。
委員	未利用地について、市所有の土地だけでなく徳島文理大学の跡地も含むことも考えてほしい。
事務局	企業誘致に関しては、基本的に公共施設を対象としている。高校の跡地利用も県と一緒に考えたい。徳島文理大学については大学の所有なので、意見できる立場にない。このことから総合戦略に反映は難しい。これからのことになる。
委員	現在の施設を市民にも開放してもらえれば。このままでは、宝の持ち腐れではないか。
座長	大学側の考えが一番かと思う。大学は税金がかからない状況になっている。教育施設ではなくなったとき、税金がかかるようになる。こうなったとき、考えが変わるかも

	<p>しれない。市としては、様子を見ながら検討しなければならない。</p>
<p>委員</p>	<p>移転により、周辺のアパートや飲食店に影響が出ている。行政には、早く対応してほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>移住を検討している方を三豊市にお連れした際、地元で商売されている不動産事業者が、ツアーをしていた。移住を検討されているお客様は、土地柄はよく分かったと話していたことから、不動産事業者の働きは大きいと思う。大学のような大きな施設が移動した場合、地域経済に結びついている商店や飲食店の方、賃貸業を営んでいる方は取り残される。施設はなくなったけどこういう動き方をすれば改善する、という活動の草の根のネットワークを早く作る必要がある。</p> <p>定住させる、暮らしをさぬき市につくるということであれば、まさに不動産事業者との連携は理屈に合うと思う。ぜひ、さぬき市で不動産業を営んでいる方にお会いしてみたい。さぬき市で活躍する不動産業を育成していくことも必要だと思う。</p>
<p>座長</p>	<p>最後に事務局から、事務連絡はあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>&lt;事務連絡&gt;</p>
<p>座長</p>	<p>以上で、本日の会議を終了します。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">&lt; 閉 会 &gt; (16:00)</p>